

NEWS LETTER

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会
www.ginza-machidukuri.jp

〒104-0061 中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています*許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます*

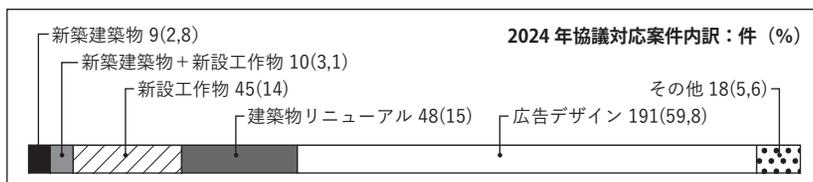
130
2025-02-17

銀座街づくり会議 2024 年活動報告

【開催報告】銀座デザイン協議会：デザインレビュー 2024

－対話型協議による風景形成のアプローチ

2024 年の銀座デザイン協議会対応案件は、広告デザイン 191 件が半数以上を占め、次いで工作物や建築物のリニューアルが 93 件、そして建築物は 19 件です。計 321 件におよぶ案件数の多さから、絶えず街が変化し、動き続けていることが読み取れます。



銀座街づくり会議はこの1年、「銀座ビジョン2040」の取りまとめ、銀座デザイン協議会および銀座駐車場協議会の個別案件対応、KK 線や周辺開発との調整等、さまざまなテーマに取り組んできました。

個性的な店構えの連続性が生み出す街並みや、歩行者と車両の譲り合いが垣間見える通りの往来。新しい銀座ビジョンは、歩行者空間拡大を主軸として、歩くリズムを感じられる銀座らしい通り空間の発展と、通りから文化が生まれる豊かな街の未来を言葉にしました。

多種多様な企業や店舗で構成される銀座の街で、多くの人々がビジョンを共有するためには、店舗や建物など個々の所有物の方針を示したり、形式的な文言はふさわしくありません。そうした具体的なものよりも、いろいろな人の顔を想像しながら、それぞれの考えや状況に寄り添い、抽象的な空間像を共有することを大切に考えました。街全体で銀座らしい空間像を共通認識として持ち、それぞれの時間軸と場所からその空間像に向けてアプローチすることで、街全体が緩やかに変化していくことを目指し、今春、正式発表の予定です。

新しい銀座ビジョンを念頭に置きながら、2024 年にはシンポジウムを2回開催しました。1つ目のテーマは歩行者とモビリティツールの共存 (NL.129 参照)。2つ目は、「銀座デザインレビュー 2024」です。

2024 年 12 月 13 日 (金) 14 時から 15 時半に、紙パルプ会館にて開催した「銀座デザインレビュー 2024」では、①デザインレビュー 2024 と傾向、②銀座デザインルールを読み解く、③デザイン協議の普遍性と創造性、

の3部構成で展開しました。

齋藤充代表幹事による開会挨拶に始まり、石山さつきさん (銀座街づくり会議アドバイザー、日仏都市研究者) のデザインレビュー 2024、そして小林博人さん (同アドバイザー、建築家) と石山さんによる「銀座デザインルール」の解説、それからシモーネ・ウゴリーニさん (BAPE JAPAN 代表)、濱田豊さん (濱田興産株式会社取締役)、小林さん、石山さん、東條幹雄街づくり委員長のパネルディスカッションと続き、堀田峰明街づくり副委員長のご挨拶で閉会しました。

シモーネさんは昨年 12 月、銀座 2 丁目に BAPE STORE® GINZA をオープン。入居する建物のオーナーである濱田さんは、BAPE と銀座デザイン協議会の間で双方の意向をくみ取り、何度も調整を行いました。それを受けて BAPE は、初めての外装材を用いて銀座ならではのファサードデザインに挑戦されたのです。

事業者のコンセプトと銀座のルールは、どちらもそれぞれの精神の具現化であり、揺るぎないものです。互いの哲学を尊重しながら話し合いを深めることで、双方の「らしさ」に気づき、新しい発想が生まれる。BAPE の外装デザインは、相互理解に向けた努力の成果であり、対話型協議の可能性を体現する事例となりました。

通常は表に出にくく、関係者だけしか知り得ない具体的な協議実態を今回はじめて、BAPE が公表してくださいました。一つの協議事例として今後、銀座に関わる事業者皆様の個別協議と銀座らしい風景形成への理解につながることを期待しています。